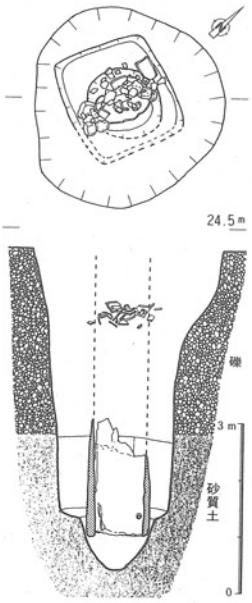
である。板は隅丸方形の一部分で、縁には側板と結合させるための樺とじの皮とそれと対をなす小さな穴がある。板面には六行の文字があるが、明瞭なのは一行目の「寺家」と三行目の「上」くらいである。寺家は正倉院文書（天平宝字四年七月二三日　東大寺封戸処分勅書）などに見え、寺院や寺当局、寺院組織を意味する。また、宇佐神宮の弥勒寺関係史料にも散見する。これらの木簡が出土した井戸などは、虚空蔵寺講堂跡からはやや離れている感もあるが、寺院の関係施設が存在したことは明らかである。

9　関係文献

宇佐市教育委員会『宇佐別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』（一九九五年）

（小倉正五）



下林遺跡Ⅳ区 SE—1 実測図

木簡研究第一七号

巻頭言　佐藤宗諄

一九九四年出土の木簡

概要　平城宮跡　平城京跡左京三条一坊十二坪　平城京跡　平城京跡左京七条一坊十六坪　東大寺　奈良女子大学構内遺跡　高安城関連遺跡　藤原宮跡　藤原京跡左京七条一坊東南坪　藤原京跡左京十一条三坊　長岡京跡(1)　長岡京跡(2)　長岡京跡(3)　平安京跡左京四条一坊一町　平安京跡左京八条三坊十四町　平安京跡右京八条二坊二町　慈照寺境内　客坊山遺跡群　大坂城跡　袴狭遺跡　見蔵岡遺跡　有年原・田中遺跡　梶子北遺跡　曲金北遺跡　伊興遺跡　錦糸町駅北口遺跡　宮町遺跡　前橋城遺跡　荒田目条里遺跡　矢玉遺跡　山王遺跡　大坪遺跡　中尊寺境内金剛院　花立Ⅱ遺跡　志羅山遺跡　福井城跡　大友西遺跡　石名田木舟遺跡(1)　石名田木舟遺跡(2)　北高木遺跡　水橋荒町遺跡　山木戸遺跡　上郷遺跡　陰田小犬田遺跡　米子城跡七遺跡　三田谷Ⅰ遺跡　吉川元春館跡　田村遺跡群　姉川城跡　中園遺跡Ⅲ区

一九七七年以前出土の木簡（一七）

平城京跡左京二条二坊六坪

刻歯簡牘初探—漢簡形態論のために—　籾山　明

新潟特別研究集会の記録

国史跡指定答申なった八幡林官衙遺跡…小林昌二、八幡林遺跡の時代的変遷…田中　靖、古代越後平野の環境・交通・官衙…坂井秀弥、封緘木簡考…佐藤　信、八幡林遺跡木簡と地方官衙論…平川　南、討論のまとめ

書評　鬼頭清明著『古代木簡の基礎的研究』　今津勝紀

彙報　頒価　五五〇〇円　送料六〇〇円